

2. 取組を進めるに当たり困難であった事例について

F. その他

④その他

《理工農系》

●東京農工大学工学府応用化学専攻

「科学立国人材育成プログラム」の事例

＜博士後期課程入学者の確保＞

(具体的に何を実施し、何が困難であったのか)

残念ながら、博士後期課程入学者を大幅に向上することができなかった。

(苦労したこと、困難であったことの具体的な要因は何だったのか、それにより実施内容がどのような影響を受けていたのか)

これは社会的な要因が大きいと考えられる。就職不安からか、マスターからドクターへの進学者が激減する時代に入ってしまった。科学立国人材育成プログラムは明らかに実践力のあるドクターを育てる仕組みであることは間違いないが、入学者の絶対数が少ないのではどうにもならない。分野にもよるが、応用化学専攻、電気電子専攻は大幅減、生命工学専攻はそれほど影響は受けていない。

(どのように対応し、どのような結果が得られたのか、また、その結果が望ましいものではなかった場合、あらかじめどのように対応していれば適切であったのか、どうすればより良い結果を導くことができたのか)

農工大ドクターOBによる進路説明会を通じて、ドクター進学を促したり、教員を含めた合宿によりドクター・マスター融合の研究交流会を開いたりした。一部効果は見られたが、ドクター進学不安は社会現象であり今後の大きな課題である。